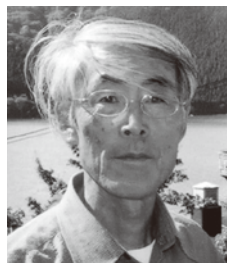


「東日本大震災の復興を願った

イメージどおりの写真になりました」

― 第五十九回写真道展大賞に輝いた

高谷喜一さんにお聞きしました ―



編 大賞の受賞おめでとうございました。
高谷 ありがとうございます。選んでいただいた諸先生にお礼を申し上げます。大賞受賞の知らせに、まずびつくりし、妻からも「よかったね、ごほうびもらったね」と言われ、夫婦ともども大変うれしく思いました。

編 見事な太陽のカサですね。
高谷 太陽のカサは、約二万メートル上空にできる氷層に太陽光が屈折してできる現象ですが、以前から被写体利用できないか、構想の一つにはあったものです。このカサは、昨年六月にたまたま訪れた恵庭のえこりん村で十二時過ぎに見たもので、数時間は続いたように思います。

陽のカサも場所を変えて二枚ほど撮影しましたが、そのうちの一枚です。「光輪」は、太陽のカサと背景の家屋、石膏像をいかに入れるかを考え、手持ちの17ミリレンズで下からあおつて撮りました。撮れた写真を見て、東日本大震災の復興を願う気持ちも意識し、「これは撮れた!」という手応えがありました。

編 普段の撮影は?
高谷 単独撮影が多いですね。山歩きが好きで、藻岩山はよく登ります。そこで木、花、風景、雲など撮っていますが、最近は体力と相談しながら、あまり遠出はしていません。近年、フィルムカメラを落下・破損し、これを機にデジタルカメラに変えました。しかし、「フィルム感覚」からはなかなか抜け出せませんね。

編 撮影時の状況を教えてください。
高谷 私は、その場でじっくり構図を考えて撮るほうで、いつもシャッター数は少なく、太

編 撮影にあたって、こだわりは?
高谷 下から撮る写真が結構多いんですが、いろいろな被写体とコミュニケーションを交わしながらの近接撮影には魅力を感じていて、広角レンズを多用しています。それが個性を引き出すことにもつながるかなと思います。



写真道展大賞「光輪」

編 今後、どんな写真を?
高谷 年齢等を考慮すると大胆なことはできませんが、体調に気配りしながら、今のスタイルは続けていきたいと思っています。

第五十九回写真道展 入賞・入選 喜びの声

初応募入賞

早坂 藤男

旭川支部



三部門
 入賞・入選
 中川 ミエ子
 釧路支部



この度は、大きな賞をいただき、大変感激しております。この作品は、五月の下旬に旭山動物園で撮影したものです。園内を二巡りし、もう一度チンパンジー館に入ると中は閑散としていて、帰りながら、ふと上を見ると良い場面でしたので素早くシャッターを押しました。これからもスナップを主として撮り続けていきたいと思っています。

会友
奨励賞受賞

中西 勉

室蘭支部



この度は、自分には縁のない賞と想っていた『会友奨励賞』を頂き、驚きと信じられない気持ちの交差した複雑な心境を体験し、改めて写真活動を支えてくれた方々に御礼申し上げます。

今回の会友奨励賞「ひだまり」は、一昨年孫が、小雨そぼ降る肌寒い日の学校帰り道路端でうずくまっていた一匹の子猫を助けあげた事に物語は始まります。

犬猫病院に連れて行ったところ、先生に「どうしても助けたいんですか?」と聞かれ、助か

この度は入賞、入選という光栄に恵まれて、幸せと喜びをかみしめております。私は仕事の傍ら、少しの時間があれば、四季折々の自分の身近にある被写体を求めてカメラ片手に歩いております。

今回入賞の1部の作品、昆布漁の天気と時間との戦いの中で、若いお母さんが赤ちゃんをおんぶして働いている姿を見て思わずシャッターを押しました。2部の作品は、船からトラックにサンマを積み込む作業をどう切り取りをするか思案。荷台の上に乗せていただき、片手で車の手すりにつかまり、片手にカメラを持ち、夢中でシャッターを押した苦心の一枚です。3部の作品はカモメたちの餌の取り合いです。生存競争ですネ。

健康に感謝しながらこれからも生まれ育ったふるさとを撮り続けてまいりたいと考えております。